

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-271980

(P2006-271980A)

(43) 公開日 平成18年10月12日(2006.10.12)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
<b>A 6 1 B 17/12 (2006.01)</b>	A 6 1 B 17/12	4 C 0 6 0
<b>A 6 1 B 1/00 (2006.01)</b>	A 6 1 B 1/00 3 3 4 D	4 C 0 6 1

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 16 頁)

(21) 出願番号	特願2006-127222 (P2006-127222)	(71) 出願人	591157154 ウィルソン・クック・メディカル・インコーポレーテッド WILSON-COOK MEDICAL INCORPORATED アメリカ合衆国ノース・カロライナ州27 105, ウィンストン・セイレム, ペサニア・ステーション・ロード 4900
(22) 出願日	平成18年5月1日(2006.5.1)	(74) 代理人	100089705 弁理士 社本 一夫
(62) 分割の表示	特願平9-511431の分割	(74) 代理人	100076691 弁理士 増井 忠式
原出願日	平成8年9月6日(1996.9.6)	(74) 代理人	100075270 弁理士 小林 泰
(31) 優先権主張番号	08/524,069		
(32) 優先日	平成7年9月6日(1995.9.6)		
(33) 優先権主張国	米国 (US)		

最終頁に続く

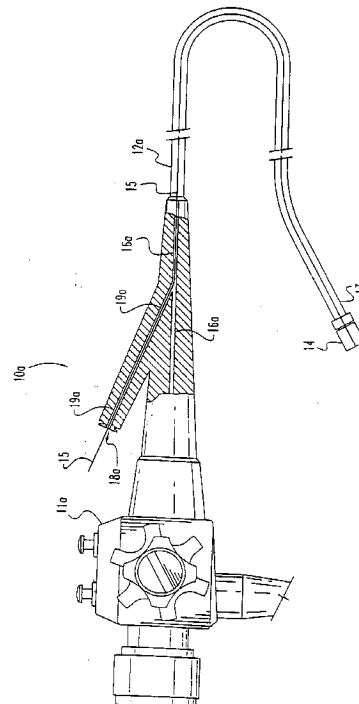
(54) 【発明の名称】 内視鏡式結紮具用の通路取り付け型作動機構

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 各種型式の内視鏡に取り付けでき且つ結紮を行い得るように正確に制御できる内視鏡式結紮具用の作動機構を提供する。

【解決手段】 内視鏡式結紮具 1 4 を作動させる作動機構は、取り付け要素と、該取り付け要素に接続された作動要素とを備え、取り付け要素は、内視鏡 1 0 a の作用通路 1 6 a の基端の開口部内に直接挿入され且つ作動機構を内視鏡に取り付けるために作用通路内に嵌まり得る寸法とされ、また作用通路及び取り付け要素の通路を通じて作動機構の作動要素まで導入される、結紮装置の作動ひもを受け入れる通路を備えている。作動ひも 1 5 は、作動要素のスプールに取り付けられ該作動要素に係合位置、又は非係合位置に設定する駆動ピン及びローラ・クラッチと、駆動ピンを回転させるノブとを提供する。駆動ピンがローラ・クラッチに係合したとき、ノブは一方の方向にのみ回転可能であり、また非係合位置にあるとき、ノブは両方向に回転可能である。

【選択図】 図 1



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

中空の身体器官内の疾患部分を結紮する内視鏡式結紮具であって、内視鏡の末端の挿入端に配置され、該内視鏡は末端の開口部から同内視鏡の基端の開口部まで該内視鏡を貫通して伸長する通路を有し、該内視鏡の通路を介して内視鏡の基端の開口部まで通される作動ひもを有する前記結紮具用の作動機構において、

(a) 内視鏡の通路の基端の開口部内に挿入し得る寸法とされた第一の部分を有する取り付け要素であって、該取り付け要素の前記第一の部分を内視鏡の通路の基端の開口部内に挿入したとき、前記作動ひもを該取り付け要素に通すべく貫通して伸長する導入通路を有する、取り付け要素と、

10

(b) 前記取り付け要素に結合された作動要素と、を備え、該作動要素が、前記作動ひもを前記取り付け要素の前記導入通路を貫通して通すとき、該作動ひもを取り付けるための手段と、

該作動ひもを前記作動要素に接続し、ひもを選択的に引っ込めることにより、前記結紮装置を所望通りに作動させ得るようにする、作動ひもを引っ込めるための手段と、を備え、

前記内視鏡が、前記通路の基端の開口部を覆って配置された密封部材を更に備え、該密封部材が、内視鏡の基端の開口部と連通した開口部を有し、

前記取り付け要素が、前記第一の部分に隣接した第二の部分を更に備え、前記第二の部分が、前記第一の部分が前記通路の基端の開口部を貫通して伸長するとき、前記密封部材内に受け入れられるような寸法とされ、

20

前記取り付け要素の前記第二の部分が、前記密封部材の開口部に対して摩擦嵌めし得るような寸法とされた、作動機構。

## 【請求項 2】

中空の身体器官内の疾患部分を結紮する内視鏡式結紮具であって、内視鏡の末端の挿入端に配置され、該内視鏡は末端の開口部から同内視鏡の基端の開口部まで該内視鏡を貫通して伸長する通路を有し、該内視鏡の通路内を内視鏡の基端の開口部まで通される作動ひもを有する前記結紮具用の作動機構において、

(a) 内視鏡の通路の基端の開口部内に挿入し得る寸法とされた第一の部分を有する取り付け要素であって、前記第一の部分を内視鏡の通路の基端の開口部内に挿入したとき、前記作動ひもを該取り付け要素内を通すべく貫通して伸長する導入通路を有する、取り付け要素と、

30

(b) 前記取り付け要素に接続された作動要素とを備え、該作動要素が、

前記作動ひもを前記取り付け要素の前記導入通路内に通すとき、該作動ひもの基端に係合する手段を有するスプールと、

前記作動ひもを該スプールと係合させるとともに、該作動ひもを引き込める手段であって、前記スプールが一の方向に回転するのを阻止し且つ前記スプールが反対の方向に回転するのを許容し、これにより、前記スプールを前記許容された方向に回転させることにより、該作動ひもを選択的に引き込めることで、結紮装置を所望通りに作動させ得るようにする手段とを備え

40

前記内視鏡が、前記通路の基端の開口部に上方に互って配置された密封部材を更に備え、該密封部材が、内視鏡の基端の開口部と連通した開口部を有し、

前記取り付け要素が、前記第一の部分に隣接する第二の部分を備え、前記第二の部分が、前記第一の部分が前記通路の基端の開口部を貫通して伸長するとき、前記密封部材の開口部内に受け入れられるような寸法とされ、

前記取り付け要素の前記第二の部分が、前記密封部材の開口部に対して摩擦嵌めし得るような寸法とされた、作動機構。

## 【請求項 3】

中空の身体器官内の疾患部分を結紮する内視鏡式結紮具であって、内視鏡の末端の挿入端に配置され、該内視鏡が末端における開口部から内視鏡の基端における開口部まで該内

50

視鏡を貫通して伸長する通路を有し、該内視鏡の通路を貫通して内視鏡の基端の開口部まで通される作動ひもを有する前記結紮具用の作動機構において、

(a) 内視鏡の通路の基端の開口部に挿入し得る寸法とされた第一の部分を有する取り付け要素であって、前記第一の部分を内視鏡の通路の基端の開口部に挿入したとき、前記作動ひもを該取り付け要素を貫通するように通すべく貫通して伸長する導入通路を有する、取り付け要素と、

(b) 前記取り付け要素に接続された作動要素とを備え、該作動要素が、

前記作動ひもを前記取り付け要素の前記導入通路を通じて通すとき、該作動ひもの基端に係合するスプールと、

該スプールを手で回転させ得るように該スプールに作用可能に接続されたノブとを備え、これにより、前記作動ひもを前記スプールと係合させ、前記作動ひもを選択的に引っ込めることにより、該結紮具を所望通りに作動させ得るようにし、

前記内視鏡が、前記通路の基端の開口部の上方に互って配置された密封部材を更に備え、該密封部材が、内視鏡の基端の開口部と連通した開口部を有し、

前記取り付け要素が、前記第一の部分に隣接する第二の部分を備え、前記第二の部分が、前記第一の部分が前記通路の基端の開口部を貫通して伸長するとき、前記密封部材の開口部に受け入れられるような寸法とされ、

前記取り付け要素の前記第二の部分が、前記密封部材の開口部に対して摩擦嵌めし得るような寸法とされた、作動機構。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、内視鏡式結紮の分野に関する。より具体的には、本発明は、身体の中空の器官内における疾患部を結紮する内視鏡式結紮器具を作動させるのに使用される装置に関する。

【背景技術】

【0002】

選択された身体組織を覆うように弾性的なリングを取り付ける内視鏡式結紮装置は、従来の技術にて周知である。この結紮装置は、典型的に、内視鏡の末端、即ち挿入端に配置された結紮具に取り付けたひも（糸、ワイヤー又はケーブル）を引っ込めることにより作動させる。このひもは、内視鏡の作用又は作動通路内を器具の基端まで通される。幾つかの従来の装置において、この結紮具は、作動ひもを手で引っ張ることにより作動させることができる。別の装置の場合、手操作リール、又はトリガー部分、或いはモータ駆動機構を利用する機械支援による操作が為される。

【0003】

既存の作動機構は、一般に、内視鏡に確実に取り付けたり、又は色々な形態の内視鏡に容易に且つ確実に取り付けることができず、又は満足し得る制御及び精度を以て作動させることができず、また、接続を外すことも難しい。このため、従来の作動機構のこうした欠点を解決する新規な作動機構が必要とされている。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

本発明は、各種型式の内視鏡に取り付けることができ且つ結紮を行い得るように正確に制御できる、内視鏡式結紮具用の新規且つ独創的な作動機構を提供するものである。この装置は、容易に且つ便宜に使用することができ、また、結紮手順が完了したならば、接続を簡単に外すことができる。

【課題を解決するための手段】

【0005】

一つの実施の形態において、作動機構は、内視鏡のポート内に直接、挿入される取り付け要素によって内視鏡に取り付けられる。このようにして、この作動機構は、一回の操作

10

20

30

40

50

で内視鏡に確実に且つ簡単に取り付けられる。一つの特別な実施の形態において、取り付け要素は、各種型式の内視鏡用の作用通路又は作動通路内に且つ / 又は作動通路の密封ポート内に取り付け可能にされている。このようにして、行うべき結紮法のため、作動機構を確実に取り付けることができ、また、この機構は、結紮後に直ちに除去することができる。

#### 【 0 0 0 6 】

本発明の別の形態において、正確に制御可能で且つ結紮手順が完了したとき、接続を簡単に外すことのできる、結紮装置を作動させる手段が更に提供される。一つの実施の形態において、作動要素は、作動モードにて作動し、この場合、作動ひもは、正確に制御された張力の下、引っ込めて結紮バンドを所望通りに解放させることができる。この手順が中  
10 断し、又は完了したとき、作動要素は、非係合モードに引き換え、このモードにて、作動ひもにおける張力を解放して、バンドが意図せずに解放されるのを防止し、また、作動ひもを作動要素との接続から容易に外すことを可能にする。

#### 【 0 0 0 7 】

本発明の一つの目的は、安定的な形態にて内視鏡に容易に取り付けられる、内視鏡式結紮器用の作動機構を提供することである。本発明の更に別の目的は、内視鏡の通路又は補助ポート内に確実に取り付けることのできる、内視鏡用の作動機構を提供することである。

#### 【 0 0 0 8 】

本発明の更に別の目的は、所望通りに内視鏡式結紮を行い得るように正確に制御可能である、内視鏡式結紮具用の作動機構を提供することである。更に別の目的は、便利に使用でき、また、その手順が完了したとき、接続を直ちに外すことのできる作動機構を提供することができる。

#### 【 発明を実施するための最良の形態 】

#### 【 0 0 0 9 】

本発明の上記及びその他の目的並びに有利な点は、好適な実施の形態の以下の説明を読むことにより、明らかになるであろう。

#### 【 0 0 1 0 】

本発明の原理を容易に理解し得るようになる目的のため、次に、図面に図示した実施の形態に関して説明し、その説明のために特定の用語を使用する。しかしながら、これにより、本発明の範囲を何ら限定するものではなく、本発明が関連する技術分野の当業者は、本明細書に記載した本発明の原理の更なる応用例を通常、案出可能であると理解すべきである。

#### 【 0 0 1 1 】

図面をより具体的に参照すると、図 1 には、内視鏡 1 0 a の末端、即ち挿入端に取り付けられた内視鏡式結紮具 1 4 を備える内視鏡 1 0 a が図示されている。内視鏡式結紮具 1 4 は、全体として図 1 に図示されている。1 つの型式の結紮具 1 4 の詳細な説明は、1994 年 6 月 14 日付けで出願された係属中の米国特許出願第 08 / 260,380 号に記載されている。その開示内容を引用して本明細書に含めた、上記米国特許出願第 08 / 260,380 号の図 1 6 乃至図 2 0 及びその説明を特に参照する。同様に、上記米国特許出願第 08 / 260,380 号の一部継続出願として、1996 年 9 月 6 日付けで出願された同時係属中の米国特許出願第 09 / 011,798 号における明細書も本明細書に引用して含める。一般的な説明として、結紮具 1 4 は、対象とする組織の周りにて結紮具から個々に又はひとまとめにして解放させることのできる多数の結紮バンドを支持している。本発明は、米国特許第 5,320,630 号における器具のようなその他の結紮具にも使用可能であるようにすることができる。

#### 【 0 0 1 2 】

内視鏡 1 0 a は、作動制御部分 1 1 a と、可撓性部分 1 2 a と、末端、即ち挿入端部分 1 3 a とを有する従来の内視鏡とすることができる。内視鏡式結紮具 1 4 は、内視鏡 1 0 a の末端部分 1 3 a に配置され且つ作動ひも 1 5 を備えている。また、内視鏡 1 0 a は、作動通路、即ち作用通路 1 6 a も備えており、該作用通路は、末端部分 1 3 a から内視鏡  
50

10 aを貫通して作動制御部分11 a及び基端開口部18 aまで伸長している。作動ひも15は、作動通路16 aを貫通して結紮具14から伸長して、基端の開口部18 aから外に出ることが好ましい。

#### 【0013】

図1を更に参照すると、作動通路16 aは、色々な形態にて構成することができる、基端開口部18 aにおける基端の通路部分19 aを備えている。例えば、図1 A、図1 B、図1 Cは、基端の通路部分の各々が異なる形態を有する、その基端の通路部分19 a、19 b、19 cのそれぞれ断面図である。図1 Aには、一般に、ペンタックス(Pentax)から販売されている市販の内視鏡の型式のものと同様である内視鏡10 aが図示されている。図1 Bには、一般にオリンパス(Olympus)から販売されている市販の内視鏡の型式と同様である内視鏡10 bが図示されている。図1 Cには、一般に、フジノン(Fujinon)から販売されている市販の内視鏡の型式と同様である内視鏡10 cが図示されている。これらの内視鏡は、それぞれ対応する基端の通路部分19 a乃至19 cに取り付けられた密封部材17 a乃至17 cを備えている。

10

#### 【0014】

図2は、本発明の一つの実施の形態による作動機構20の平面図である。作動機構20は、取り付け要素21と、作動要素22とを備えている。作動要素22は、基部30と、駆動ピン40と、スプール50と、ノブ60と、ローラ・クラッチ70(図4 B参照)と、保持キャップ90とを含むことができる。取り付け要素21は、作動要素22に取り付けられ、また、この取り付け要素を使用して、作動機構20を基端の通路部分19 a、19 b、19 cに取り付け、又はその他の補助ポート又はその他の内視鏡の基端の通路の形態部分に取り付けられる。

20

#### 【0015】

図3 Aは、取り付け要素21の第一の実施の形態の図である。取り付け要素21は、継手部分23と、第一の合わせ部分24 aと、第二の合わせ部分24 bと、外側の密封部分25とを含む。継手部分23は、作動要素22に接続可能にされている。継手部分23は、例えば、作動要素22に螺着し、又は圧力嵌めし、或いは作動要素と一体とすることができる。

#### 【0016】

第一及び第二の合わせ部分24 a乃至24 bのそれぞれ、及び取り付け要素21の外側の密封部分25は、図3 Aに図示した一つの具体的な実施の形態にて特別な形態とされている。取り付け要素21も同様に、本発明の教示に従った色々な代替的な形態の構造とすることが可能であることを理解すべきである。図3 Aに図示した取り付け要素21の特別な実施の形態は、図1 Aに図示するように、基端の開口部18 aと、基端の通路部分19 aとを有する内視鏡に係合可能である。図示した内視鏡10 aにおいて、基端の通路部分に密封部材17 aが設けられている。図3 Aのこの取り付け要素は、基端の開口部18 a及び密封部材17 aを貫通して基端の通路部分19 a内に伸長している。この特別な実施の形態において、第一の合わせ部分24 aは、第二の合わせ部分24 bが密封部材17 a内に受け入れられる間に、基端の通路部材19 a内に嵌まり得る形状とされている。この特別な実施の形態において、外側の密封部分25は、内視鏡の密封部材17 a、又は基端の通路部分19 a内に受け入れられていない。

30

40

#### 【0017】

取り付け要素の合わせ部分24 a、24 bと密封部材17 a及び内視鏡の基端の通路部分19 aとが嵌まることで、作動機構20を安定的に取り付けることが可能となる。取り付け要素21は、装置を色々な内視鏡に確実に取り付け易くする効果のある各種の方法にて、取り付け可能な形態とされている。例えば、作動機構が取り付けられる内視鏡に依存して、この取り付けは、取り付け要素の部分が内視鏡の密封部材、又は基端の通路部分の形状に基本的に従う、形状嵌合(form fit)の取り付け状態とすることができる。この取り付け状態は、摩擦嵌め、又は圧力嵌めとすることもでき、或いは、取り付け要素、又はその一部の長さ、或いは代替的に、取り付け要素の部分は、内視鏡の通路内に緩く嵌まり

50

、これにより、取り付け要素 2 1 が内視鏡の作動通路の周りで作動機構 2 0 の相対的な動きを規制し、又は制限して、安定性を増すことができる。

【 0 0 1 8 】

図 3 A の取り付け要素は、各種の異なる内視鏡の任意のものに安定的に取り付けることができる。例えば、図 1 B において、第一の合わせ部分 2 4 a、及び第二の合わせ部分 2 4 b は、図 1 A に図示したものと異なる設計とされた内視鏡の基端の通路部分 1 9 b に嵌まり得る寸法とされている。同一の構造の取り付け要素により、外側の密封部分 2 5 は、図 1 B の内視鏡の密封部材 1 7 b 及び図 1 A の内視鏡内に受け入れることができる。図 1 0 B、図 1 1 B に更に詳細に図示するように、図 1 B において、取り付け部分 2 4 a、2 4 b は、基端の通路部分 1 9 b 内に形状嵌合又は幾何学的に嵌合される。また、外側の密封部分 2 5 は、密封部材 1 7 b 内に弾性的嵌合又は形状嵌合されることが好ましい。上述したように、取り付け要素の部分は、装置を内視鏡に安定的に取り付けるのに役立ち得るように、色々な設計の内視鏡の基端の通路部分 1 9 b 及び / 又は密封部材 1 7 b 内に嵌まり得る寸法及び形態とされている。

10

【 0 0 1 9 】

また、図 3 A の取り付け要素は、例えば、図 1 C に図示した型式の内視鏡に取り付けることもできる。この場合にも、取り付け要素 2 1 を内視鏡 1 0 c の密封部材 1 7 c 及び / 又は基端の通路部分 1 9 c 内に取り付けることは、作動機構 2 0 を安定状態に取り付けるのに役立つ色々な仕方にて行うことができる。この具体例において、外側の密封部分 2 5 は、その他の実施例で示すように、密封部材 1 7 c 内に伸長するような形態とはされていないことに留意すべきである。

20

【 0 0 2 0 】

取り付け要素 2 1 は、また、当該取り付け要素 2 1 を貫通して伸長する第一の貫通通路 2 7 を提供することが好ましい。この第一の貫通通路 2 7 の第一の開口部 2 8 は、図 3 B に図示されており、第一のひも用通路 2 7 の反対側の第二の開口部 2 9 は、図 3 C に示してある。取り付け要素 2 1 を基端の通路部分の輪郭内に挿入した後、作動ひも 1 5 を第一の開口部 2 8 内に通し且つ第二の開口部 2 9 から外に出して、作動要素 2 2 に接続し得るようにする。

【 0 0 2 1 】

図 4 A は、作動要素 2 2 の基部 3 0 の正面図である。基部 3 0 は、基部分 3 0 a と、該基部分 3 0 a に接続された第一のアーム 3 1 と、同様に、基部分 3 0 a に接続された第二のアーム 3 2 とを備えることができる。本発明は、第一のアーム 3 1 と第二のアーム 3 2 との接続部は、任意の形態とすることが可能であるが、第一のアーム 3 1 及び第二のアーム 3 2 は、基部分 3 0 a と一体にすることが好ましい。図 4 B に図示するように、第一のアーム 3 1 は、第一の受け入れ開口部 3 3 を提供し、また、図 4 C に図示するように、第二のアーム 3 2 は、第二の受け入れ開口部 3 4 を提供する。基部分 3 0 a は、その底側部に形成された凹部 3 5 と、第二の貫通通路 3 6 とを画成し、この第二の貫通通路は、凹部 3 5 と、基部分 3 0 a の頂側部とを連通させる。図 4 D は、図 4 A の底側面図であり、凹部 3 5 と第二の貫通通路 3 6 の第一の開口部 3 7 とを更に示す。図 4 E は、図 4 A の平面図であり、第一のアーム 3 1 及び第二のアーム 3 2 と、その内部に内側の密封部材 3 9 が配置された第二の貫通通路 3 6 の第二の開口部 3 8 の頂面図を示す。作動ひも 1 5 を取り付け要素 2 1 を通されるとき、この作動ひもは、第一の開口部 3 7 内を通され、第二の開口部 3 8 内に配置された内側の密封部材 3 9 を通って、第二の開口部 3 8 から外に出る。

30

40

【 0 0 2 2 】

図 5 A は、駆動ピン 4 0 の側面図である。駆動ピン 4 0 は、第一の回転部分 4 1 a と、第二の回転部分 4 1 b と、第三の回転部分 4 2 と、第四の回転部分 4 3 とを含むことが好ましい。作動モードに応じて、第一の回転部分 4 1 a か又は第二の回転部分 4 1 b を、第一のアーム 3 1 の第一の受け入れ開口部 3 3 内に配置されたローラ・クラッチ 7 0 ( 図 4 B 参照 ) 内に配置することができる。第一の回転部分 4 1 a は、ローラ・クラッチ 7 0 内にて回転可能な寸法とされている一方、第二の回転部分 4 1 b は、第一のアーム 3 1 の第

50

一の受け入れ開口部 33 内にてローラ・クラッチ 70 に係合し、これにより、作動要素がその係合作動モードに設定されたとき、一方向にのみ回転することを可能にし得るような寸法とされている。図 5 B は、駆動ピン 40 の前面図である。第一の回転部分 41 a は、駆動ピン 40 の端部に配置された保持キャップ 90 を受け入れ得る形態とされている（図 2 参照）。この保持キャップ 90 は、第一の回転部分 41 a が第一の受け入れ開口部 33 から外れるのを防止する。図 5 C は、駆動ピン 40 の背面図である。

#### 【0023】

図 5 A を再度参照すると、第三の回転部分 42 は、第二のアーム 32 の第二の受け入れ開口部 34 内に配置される。この第三の回転部分 42 は、第二の受け入れ開口部 34 内にて回転し且つ同受け入れ開口部内を摺動し得る設計とされている。駆動ピン 40 は、ノブ 60 に結合するローレット部分 44 を第三の回転部分 42 に更に備えている。第四の回転部分 43 は、スプール 50 内に配置可能な設計とされている。

10

#### 【0024】

図 6 A は、スプール 50 の側面図である。スプール 50 は、穴 52 を有するスロット 51 を備えることができる。穴 52、及びスロット 51 は、基部 30 の第二の開口部 38 から作動ひも 15 を受け入れる。作動ひもをスロット 51 内に摺動させ且つ作動ひも 15 の結び目を穴 52 を通して配置することにより、作動ひも 15 は穴 52 及びスロット 51 に結合される。図 6 B は、スプール 50 の正面図である。スプール 50 は、駆動通路 53 を更に備えている。駆動通路 53 は、駆動ピン 40 の第三の回転部分 43 を受け入れ、その駆動通路 53 及び第三の回転部分 43 の双方は、図示するように、四角の断面形状とすることができる。このように、駆動ピン 40 の第四の回転部分 43 とスプール 50 の駆動通路 53 とが係合する結果、駆動ピン 40 をノブ 60 で回転させたとき、スプール 50 は、駆動ピン 40 と同一方向に回転する。スプール 50 が駆動ピン 40 と共に回転することを条件として、駆動ピン 40 の第四の回転部分 43 及びスプール 50 の駆動通路 53 は、各種の形態とすることが可能であることを理解すべきである。

20

#### 【0025】

図 7 は、ノブ 60 の底側面である。ノブ 60 は、結合凹部 61 を有している。接続凹部 61 は、駆動ピン 40（図示せず）のローレット部分に取り付けることにより、駆動ピン 40 に結合する。この結合は、ノブ 60 が駆動ピン 40 を回転させることを可能にする。また、この結合は、駆動ピン 40 の第三の回転部分 42 が第二の受け入れ開口部 34 から外れるのも防止する。本発明は、ノブ 60 を手動又は機械的の何れかで操作することが可能である。

30

#### 【0026】

図 8 及び図 9 は、作動機構 20 の 2 つの作動モードの図である。図 8 A には、非係合動作モードが示してある。作動ひも 15 は、取り付け要素 21、及び基部 30 を通され、スプール 50 に接続されている。この非係合動作モードは、駆動ピン 40 がローラ・クラッチ 70 内にて非係合位置にあることを基本とする。図 8 A には、第二のアーム 32 の外側に略配置された駆動ピン 40 の第三の回転部分 42 が図示されている。図 8 A は、更に、駆動ピン 40 の第一の回転部分 41 a が第一のアーム 31 内に略配置された状態を示す。この位置にあるとき、第一の回転部分 41 a は、ワンウェイ・ローラ・クラッチ 70 内にある。これは、駆動ピン 40 の非係合位置である。図 8 B に図示するように、駆動ピン 40 がこの非係合位置にあるとき、ノブ 60 は、両方向（A 又は B）に回転自在である。作動ひも 15 をスプール 50 に取り付けた後、ノブ 60 を回して作動ひも 15 をスプール 50 の周りに巻くことができる。作動ひも 15 を巻き解くためにノブ 60 を第一の回転方向と反対方向に回転させることができる。

40

#### 【0027】

図 9 A には、作動動作モードが示してある。この作動動作モードも駆動ピン 40 がローラ・クラッチ 70 内にあることを基本にする。図 9 A は、第二の回転部分 42 が第二アーム 32 内に略配置されていることを示す。図 9 A は、更に、第二の回転部分 4 b がローラ・クラッチ 70 と係合接触した状態にて、第一の回転部分 41 a が第一のアーム 31 の略

50

外側に配置されていることを示す。図 9 B に示すように、駆動ピン 40 が係合位置にあるとき、第二の回転部分 41 b とクラッチ 70 とが係合した結果として、ノブ 60 は、一方向にのみ回転可能である。作動ひも 15 をスプール 50 に取り付けた後、ノブ 60 を一方向に回転させて、所望に応じて、結紮バンドを結紮具 14 から解放させるために、制御された張力下にて作動ひも 15 をスプール 50 の周りに巻くことができる。この手順が完了したならば、作動要素 21 を非係合動作モードに再設定し、作動ひも 15 の張力を除去して、作動ひも 15 がスプール 50 の周りに巻き解かれ且つ該スプール 50 から分離することを可能にする。

#### 【0028】

作動機構 20 の 2 つの動作モードについて本明細書で説明したが、ローラ・クラッチ 70 と第二の回転部分 41 b とが係合状態に保たれた状態にて、この作動機構 20 を専ら作動モードにおいてのみ使用することは、次善の策である。この次善の策としての実施の形態において、ローラ・クラッチ 70 を省略し、ワンウェイ・クリップのような要素を使用し、駆動ピン 40、スプール 50 及びノブ 60 に係合して、図 9 B に示すように、ノブが一方向にのみ回転するように制限するようにしてもよい。

#### 【0029】

図 10 A 及び図 11 A には、取り付け要素 21 を基端の通路部分 19 a 内に挿入することにより、作動機構 20 を図 1 A の内視鏡 10 a に取り付ける方法が図示されている。この図示の目的のため、内視鏡 10 a は、基端の開口部 18 a に結合した密封部材 17 a が設けられた状態で示してある。図 10 A は、取り付け要素 21 をその内部に挿入する前に、作動機構 20 が基端の開口部 18 a と整合した状態を示す。図 11 A には、基端の通路部分 19 a 内に挿入した取り付け要素 21 が示されている。挿入したとき、第一の合わせ部分 24 a、及び第二の合わせ部分 24 b は、上述したように、これに対応して、基端通路部分 19 a 及び密封部材 17 a 内に嵌まり、作動機構 20 を内視鏡 10 a に取り付けることができる。上述したように、作動ひも 15 は、作動機構 20 内に通され且つ取り付けられる。

#### 【0030】

図 10 B 及び図 11 B には、取り付け要素 21 を基端の通路部分 19 b 内に挿入することにより、作動機構 20 を図 1 B の内視鏡 10 b に取り付ける方法が示されている。この図示のため、内視鏡 10 b には、基端の開口部 18 a に結合された密封部材 17 b が設けられた状態で示してある。図 10 B は、取り付け要素 21 をその内部に挿入する前に、作動機構 20 が基端の開口部 18 b と整合した状態を示す。図 11 B は、基端の通路部分 19 b 内に挿入された取り付け要素 21 を示す。作動機構 20 を内視鏡 10 b に取り付け、外側の密封部分 25 が内視鏡 10 b の密封部材 17 b を密封するようにするため、第一及び第二の合わせ部分 24 a、24 b と基端の通路部分 19 b との嵌まり状態、及び外側の密封部分 25 と密封部材 17 b との嵌まり状態を上述したようにすることができる。

#### 【0031】

図 10 C 及び図 11 C には、取り付け要素 21 を基端の通路部分 19 c 内に挿入することにより、作動機構 20 を図 1 C の内視鏡 10 c に取り付ける方法が示してある。この図示のため、内視鏡 10 c は、基端の開口部 18 c に結合された密封部材 17 c が設けられた状態で示してある。図 10 C は、取り付け要素 21 をその内部に挿入する前に、作動機構 20 が基端の開口部 18 c と整合した状態を示す。図 11 C は、基端の通路部分 19 c 内に挿入された取り付け要素 21 を示す。この場合にも、取り付け要素 21 及び基端の通路部分 19 c と密封部材 17 c との嵌まり状態は、上述したようにすることができる。

#### 【産業上の利用可能性】

#### 【0032】

本発明は、図面に図示し且つ上記の説明にて詳細に記載したが、これは説明のためであり、その特徴を限定するものではなく、好適な実施の形態のみを図示し且つ説明したものであり、本発明の精神に属する全ての変更及び改変例が保護されることを望むものである。

10

20

30

40



## 【図面の簡単な説明】

## 【 0 0 3 3 】

【図 1】図 1 は、内視鏡の末端に配置された内視鏡式結紮具（全体的に図示）を備える内視鏡の長手方向部分図である。

【図 1 A】図 1 A は、図 1 に示した内視鏡の作動通路の基端における通路部分の第一の形態を示す断面図である。

【図 1 B】図 1 B は、図 1 に示した内視鏡の作動通路の基端における通路部分の第二の形態を示す断面図である。

【図 1 C】図 1 C は、図 1 の内視鏡の作動通路の基端の通路部分の第三の形態の断面図である。

10

【図 2】図 2 は、図 1 の内視鏡式結紮具を作動させる作動機構の平面図である。

【図 3 A】図 3 A は、図 2 の作動機構の取り付け要素の図である。

【図 3 B】図 3 B は、図 2 の作動機構の取り付け要素の図である。

【図 3 C】図 3 C は、図 2 の作動機構の取り付け要素の図である。

【図 4 A】図 4 A は、図 2 の作動機構の基部の図である。

【図 4 B】図 4 B は、図 2 の作動機構の基部の図である。

【図 4 C】図 4 C は、図 2 の作動機構の基部の図である。

【図 4 D】図 4 D は、図 2 の作動機構の基部の図である。

【図 4 E】図 4 E は、図 2 の作動機構の基部の図である。

【図 5 A】図 5 A は、図 2 の作動機構の駆動ピンの図である。

20

【図 5 B】図 5 B は、図 2 の作動機構の駆動ピンの図である。

【図 5 C】図 5 C は、図 2 の作動機構の駆動ピンの図である。

【図 6 A】図 6 A は、図 2 の作動機構のスプールの図である。

【図 6 B】図 6 B は、図 2 の作動機構のスプールの図である。

【図 7】図 7 は、図 2 の作動機構のノブの図である。

【図 8 A】図 8 A は、ノブ 6 0 が両方向（A 又は B）に回転自在である、図 2 の作動機構の非係合動作モードの図である。

【図 8 B】図 8 B は、ノブ 6 0 が両方向（A 又は B）に回転自在である、図 2 の作動機構の非係合動作モードの図である。

【図 9 A】図 9 A は、ノブ 6 0 が一方向にのみ回転自在である、図 2 の作動機構の作動動作モード状態の図である。

30

【図 9 B】図 9 B は、ノブ 6 0 が一方向にのみ回転自在である、図 2 の作動機構の作動動作モード状態の図である。

【図 1 0 A】図 1 0 A は、図 1 A の基端の通路部分内に挿入する前の図 2 の作動機構の図である。

【図 1 0 B】図 1 0 B は、図 1 B の基端の通路部分内に挿入する前の図 2 の作動機構の図である。

【図 1 0 C】図 1 0 C は、図 1 C の基端の通路部分内に挿入する前の図 2 の作動機構の図である。

【図 1 1 A】図 1 1 A は、図 1 A の基端の通路部分内に挿入した後の図 2 の作動機構の図である。

40

【図 1 1 B】図 1 1 B は、図 1 B の基端の通路部分内に挿入した後の図 2 の作動機構の図である。

【図 1 1 C】図 1 1 C は、図 1 C の基端の通路部分内に挿入した後の図 2 の作動機構の図である。

## 【符号の説明】

## 【 0 0 3 4 】

1 0 a 内視鏡、

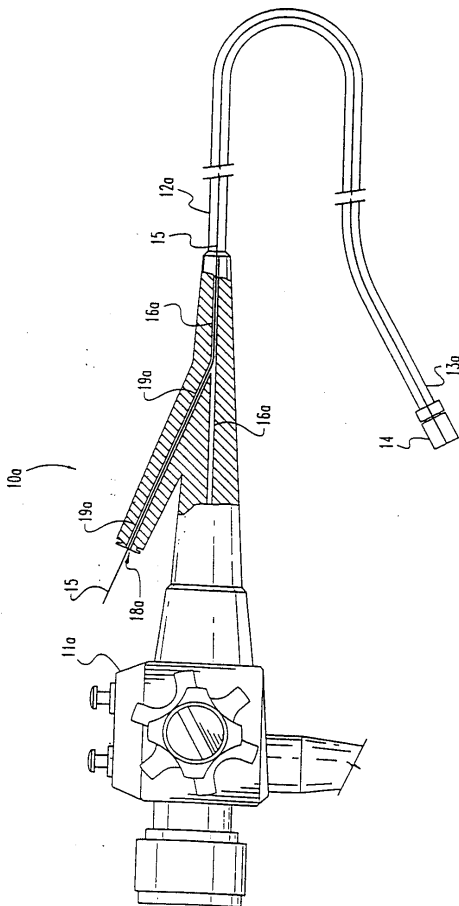
1 1 a 作動制御部分、

1 2 a 可撓性部分、

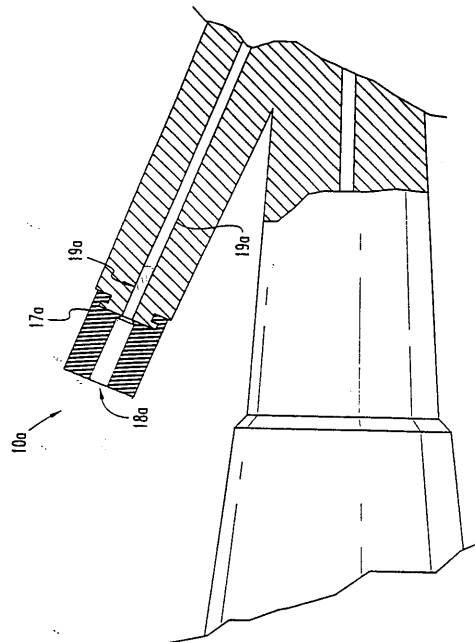
50

- 1 3 a 挿入端部分、
- 1 4 内視鏡式結紮具、
- 1 5 作動ひも、
- 1 6 a 作用通路、
- 1 7 a 密封部材、
- 2 0 作動機構、
- 2 1 取り付け要素、
- 2 2 作動要素、
- 3 0 基部、
- 3 1 第一のアーム、
- 3 2 第二のアーム、
- 3 9 密封部材、
- 4 0 駆動ピン、
- 5 0 スプール、
- 6 0 ノブ、
- 7 0 ローラ・クラッチ、
- 9 0 保持キャップ

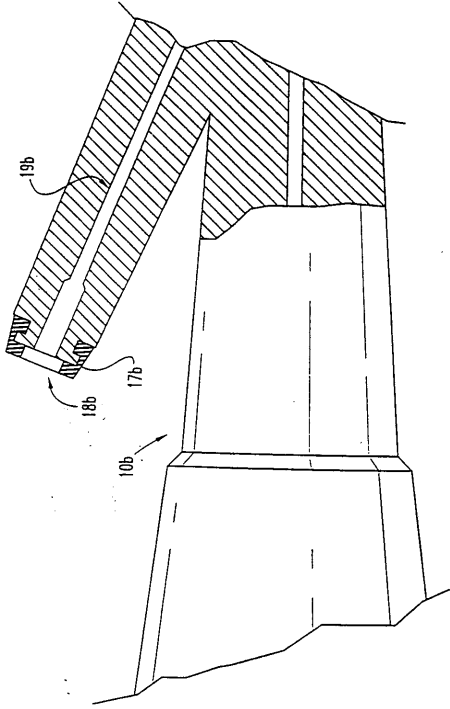
【図 1】



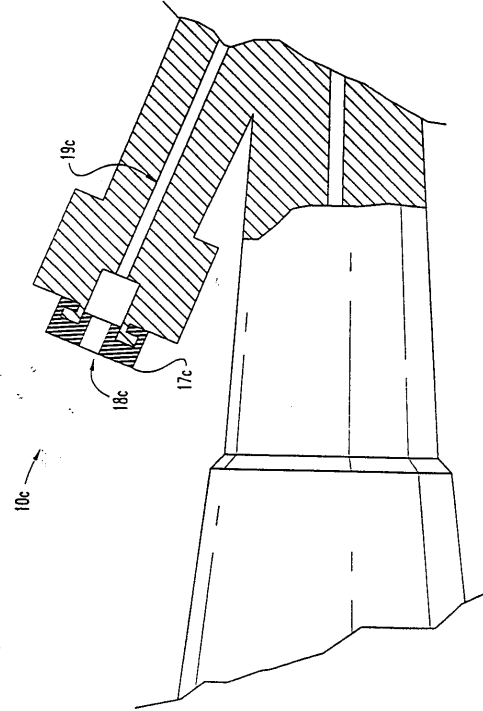
【図 1 A】



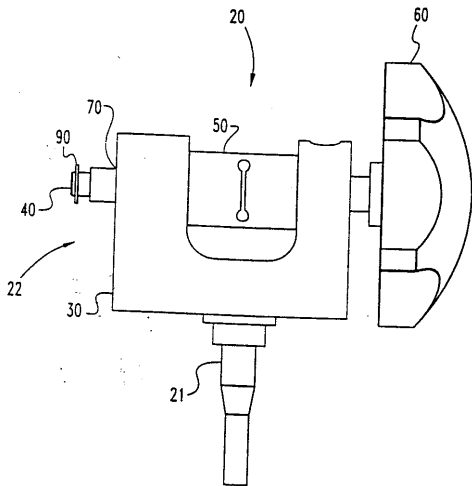
【図 1 B】



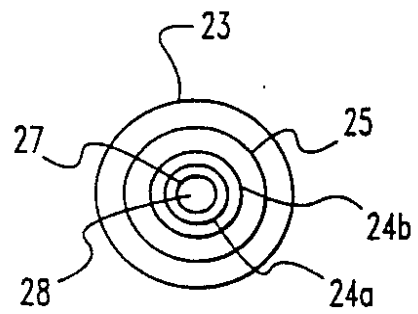
【図 1 C】



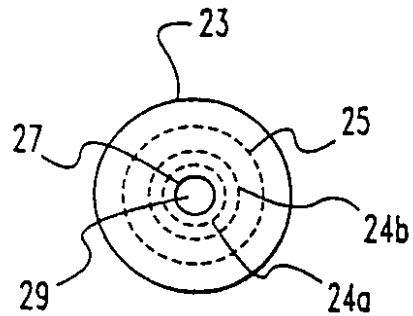
【図 2】



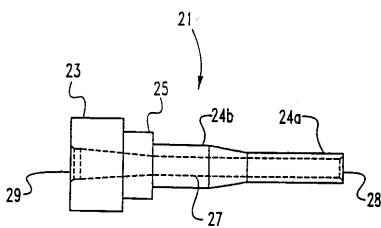
【図 3 B】



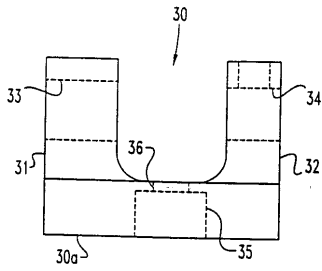
【図 3 C】



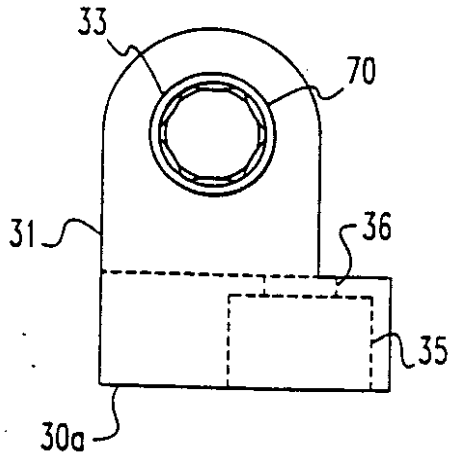
【図 3 A】



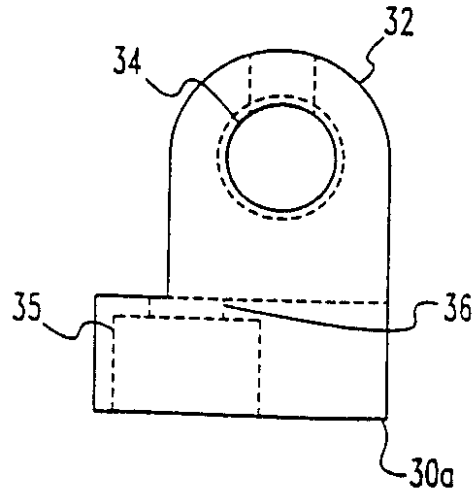
【図 4 A】



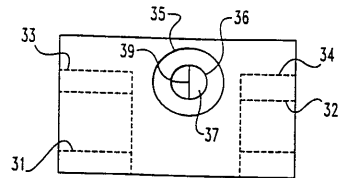
【図 4 B】



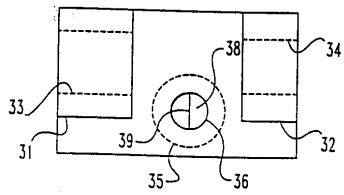
【図 4 C】



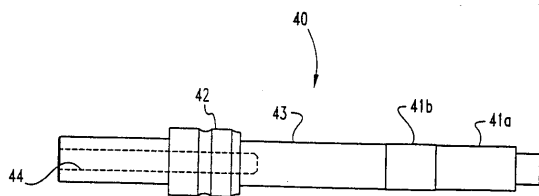
【図 4 D】



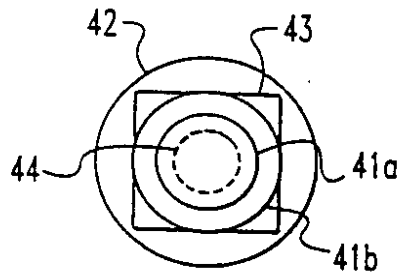
【図 4 E】



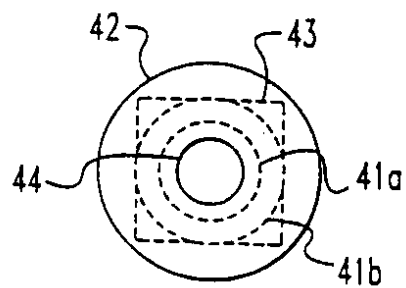
【図 5 A】



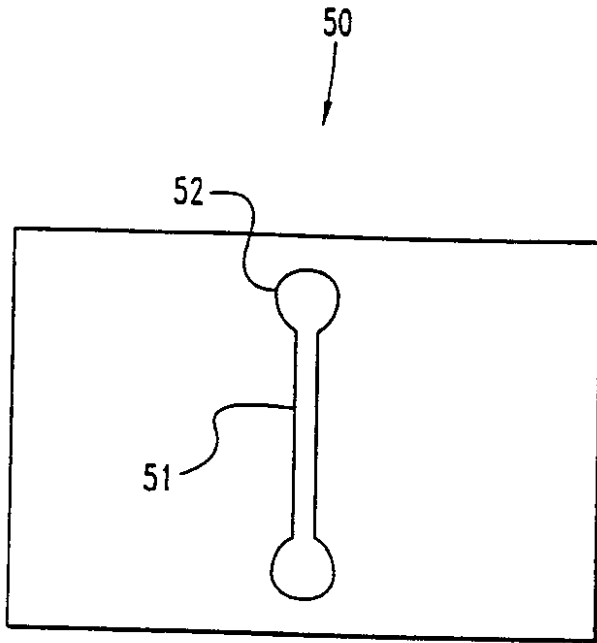
【図 5 B】



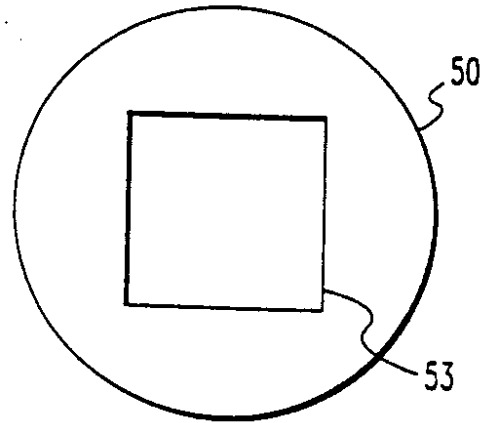
【図 5 C】



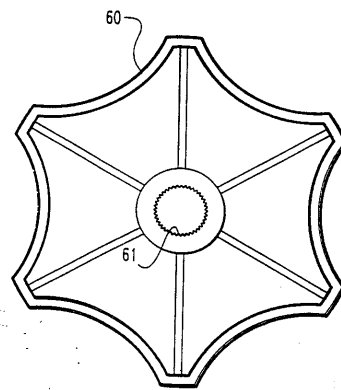
【図 6 A】



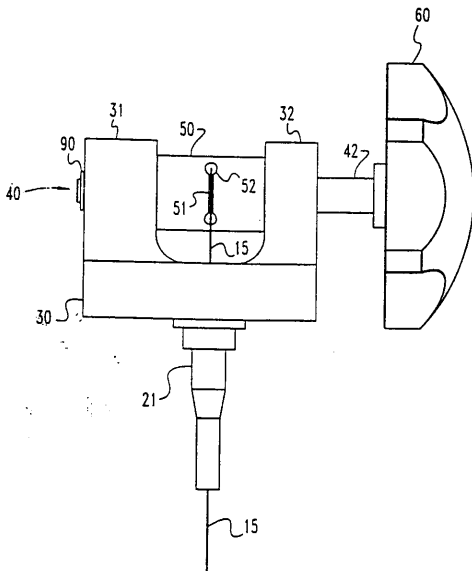
【図 6 B】



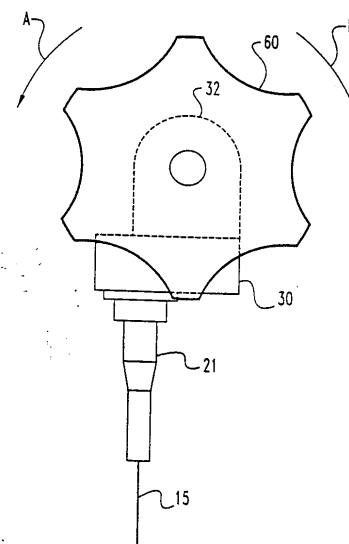
【図 7】



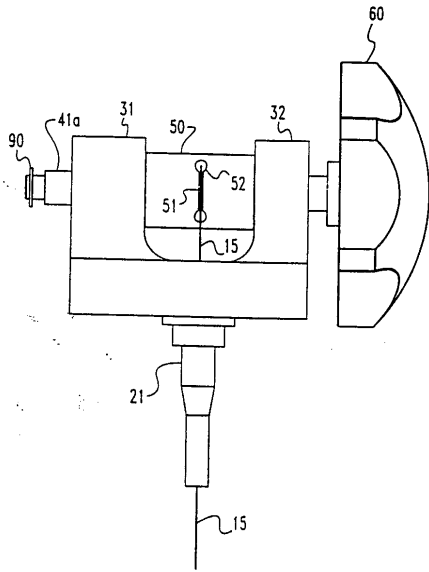
【図 8 A】



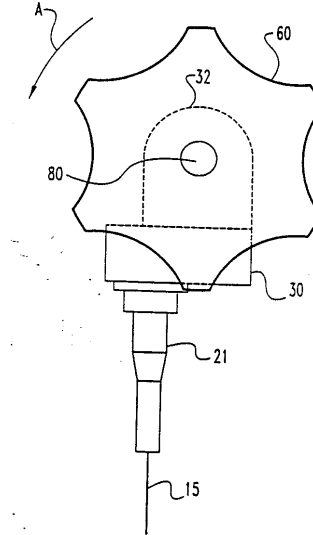
【図 8 B】



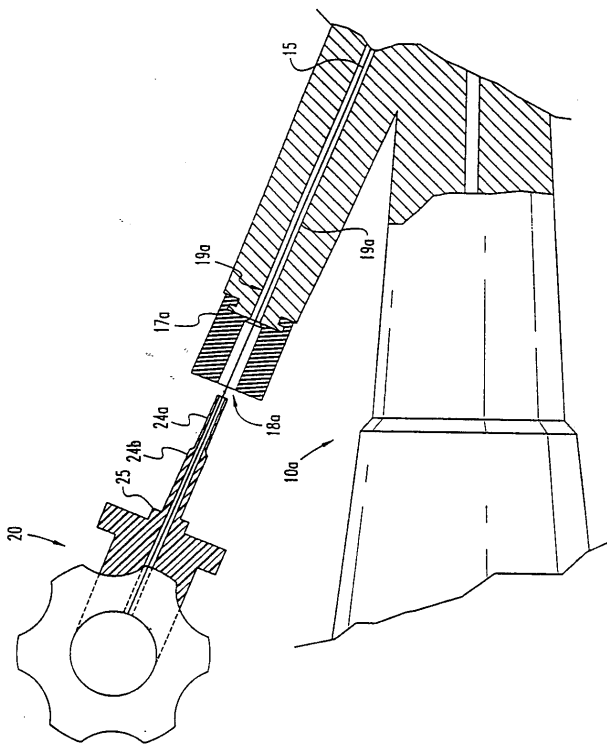
【図 9 A】



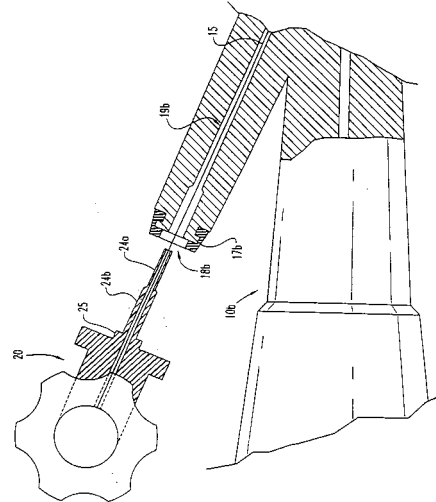
【図 9 B】



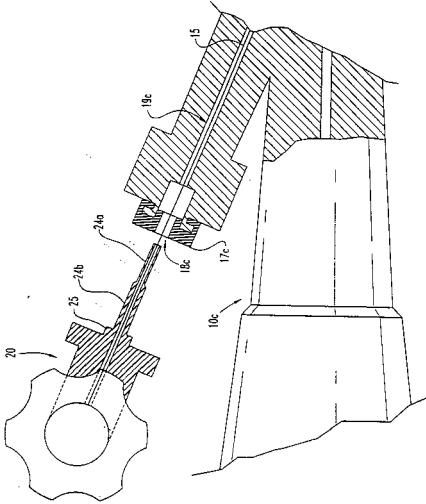
【図 10 A】



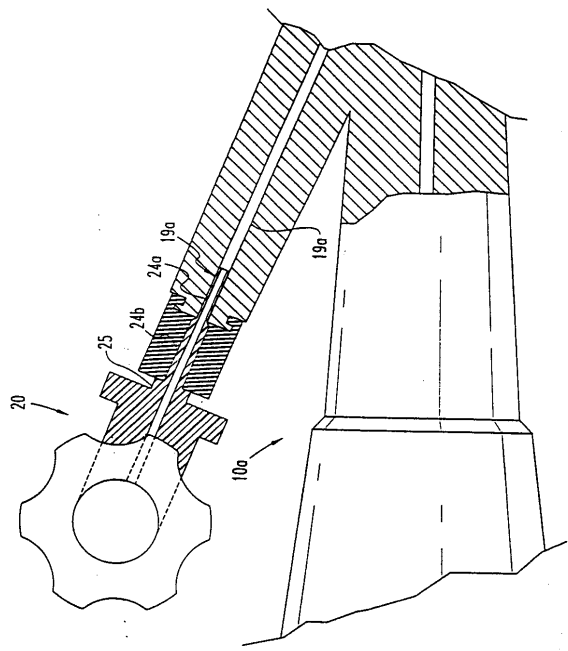
【図 10 B】



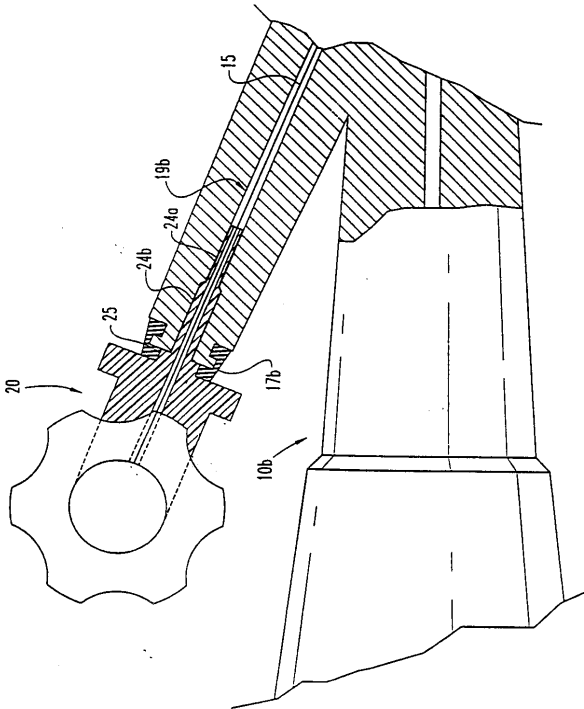
【図 10 C】



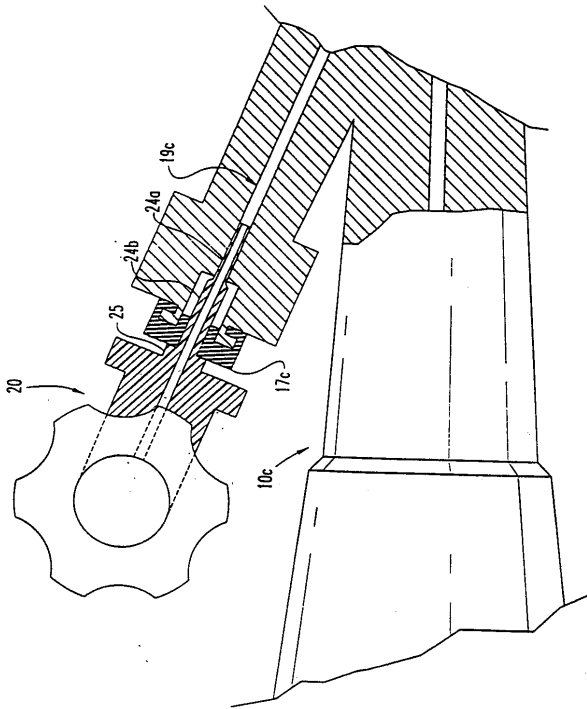
【図 11 A】



【図 11 B】



【図 11 C】



---

フロントページの続き

(74)代理人 100080137

弁理士 千葉 昭男

(74)代理人 100096013

弁理士 富田 博行

(72)発明者 フェイファー, ロドニー

アメリカ合衆国ノース・カロライナ州 2 7 2 8 4 , カーマーズヴィル, セイレム・クロッシング・  
ロード 1 2 0 9

(72)発明者 シモンズ, マイケル・ケイ

アメリカ合衆国ノース・カロライナ州 2 7 1 0 7 , ウィンストン - セイレム, フラットロック・ス  
トリート 1 9 4 2

F ターム(参考) 4C060 DD02 DD03 DD09 DD12 DD22 MM24 MM25 MM26 MM27

4C061 GG15 JJ06



专利名称(译)	用于内窥镜结扎器械的通道附接型致动机构		
公开(公告)号	<a href="#">JP2006271980A</a>	公开(公告)日	2006-10-12
申请号	JP2006127222	申请日	2006-05-01
[标]申请(专利权)人(译)	库克医学技术有限责任公司 WILSONCOOK医疗		
申请(专利权)人(译)	威尔逊 - 库克医疗公司		
[标]发明人	フェイスファーロドニー シモンズマイケルケイ		
发明人	フェイスファー,ロドニー シモンズ,マイケル・ケイ		
IPC分类号	A61B17/12 A61B1/00 A61B17/28 A61B17/30 A61B19/00 A61M1/00		
CPC分类号	A61B1/018 A61B1/00128 A61B17/12013 A61B2017/12018 A61B2017/2905 A61B2017/306 A61B2090/306 A61B2090/3614 A61B2217/005 A61B2217/007		
FI分类号	A61B17/12 A61B1/00.334.D A61B1/018.515		
F-TERM分类号	4C060/DD02 4C060/DD03 4C060/DD09 4C060/DD12 4C060/DD22 4C060/MM24 4C060/MM25 4C060/MM26 4C060/MM27 4C061/GG15 4C061/JJ06 4C160/DD22 4C160/MM32 4C160/NN11 4C161/GG15 4C161/JJ06		
代理人(译)	小林 泰 千叶昭夫		
优先权	08/524069 1995-09-06 US		
其他公开文献	JP4429292B2		
外部链接	<a href="#">Espacenet</a>		

#### 摘要(译)

要解决的问题：提供一种用于内窥镜结扎工具的操作机构，该工具可以连接到各种类型的内窥镜并且可以精确地控制以便进行结扎。用于致动内窥镜结扎带14的致动机构包括安装元件和连接至该安装元件的致动元件，该安装元件是内窥镜10a的工作通道16a的近端。装置直接插入致动器的开口中，其尺寸可安装在工作通道内，以将致动机构连接到内窥镜，并通过工作通道和连接元件的通道引入致动机构的致动元件 设有用于接收操作串的通道。致动弦15提供了驱动销和滚子离合器，其附接到致动元件的线轴以将致动元件设置在接合或脱离位置，并且旋钮使驱动销旋转。当驱动销与滚子离合器接合时，旋钮只能沿一个方向旋转，而在脱离位置时，旋钮可以沿两个方向旋转。[选型图]图1

